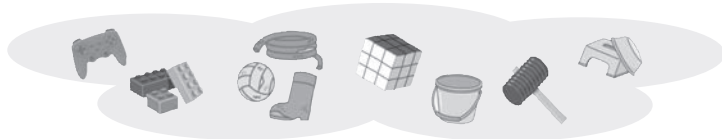


プラスチック成形技能士 1 級合格の ノウハウとコツ



高尾 信二 Shinji Takao

ゼビオプラスト(株) 製造部 機械成形課
〒329-1412 栃木県さくら市喜連川 2994
TEL: 028-686-5351

1972 年生まれ。24 歳で転職した企業でプラスチック成形を担当して以来、その奥深さの虜になる。2008 年に 1 級プラスチック成形技能士取得。2014 年には厚生労働省から「ものづくりマイスター」の認定を受け、栃木県認定の「とちぎマイスター」、宇都宮市認定の「宮のものづくり達人」の“三冠”を達成する。ゼビオプラスト(株)で廃プラスチック材料を用いた射出成形に従事するかたわら、押出成形の技能も習得中。

プラスチック成形技能士は、厚生労働省が認定する国家資格である。特級～3 級の 4 段階で構成されており、本稿で取り上げる 1 級は、実技試験では最も高いレベルを求められる。主に射出成形に携わる作業者が受験するが、営業や金型設計・製作に携わる人も受けている。技能士になると、成形作業で一番重要な「条件出し」の理論がわかるようになる。皆さんの身の回りにあるプラスチック製品は、技能士が適正な条件を導き出し、製品化されたものである。

筆者は 2008 年にプラスチック成形技能士 1 級を取得した。試験は非常に難しかった。特に実技試験は、緊張のしすぎで普段の力を発揮できないことが多い。筆者はそれを、独自のイメージトレーニングを含む勉強法で乗り切った。後述するが、1 級試験合格のポイントは、「落ち着いて、ていねいに」に尽きる。

本稿では、プラスチック成形技能士 1 級試験の概要と、実技試験を突破するためのノウハウとコツを伝える。「学科は受かったが、実技がどうしても苦手…」そんな悩みをもつ皆さんの役に立てば幸いである。

プラスチック成形技能士は人気資格

全国にどれくらいのプラスチック成形技能士 1 級の取得者がいるかご存じだろうか。技能士とつく称号は 128 種あり、プラスチック成形分野の受験者数は常に上位に位置する。人数までは把握していないが、

毎年かなりの数が受験しているとなれば、技能士は多いと言えるのではないだろうか。

1 級は、プラスチック成形の中でも医療関連のような精密プラスチック製品をつくる能力が求められる。試験はレポート提出が必須のうえ、計算問題もある。筆者の最初の受験はレポートでつまずき、2 級取得で十分だと思っていた。それでも試しに毎日 10 分レポートの勉強をしてみると不思議と頭に入ってきた。もっとも、その後もいろいろな課題があったのである。

以下に試験の概要を紹介する。

1. 受験資格と試験時期

受験資格として 2 級合格後 2 年、または 7 年の実務経験が必要であり、これを満たせば年齢、学歴、性別などに関係なく、誰でも受験できる。試験は年に 1 度。実技試験と学科試験に分かれており、両方が合格点を満たして 1 級の資格を得られる。なお片方が合格した場合、合格した試験のみ免除される。ただ、1 年に 1 回のチャンスしかないので、翌年の試験までに忘れてしまうことがネックである。

2. 合格率

年度、都道府県により異なるが、合格率はおおよそ 20～40% である。いわゆる一発合格はなかなか難しい。

3. 受験の手続き

各都道府県の職業能力開発協会に申し込む。4 月から願書の受付開始。7 月頃より実技試験、9 月頃に学科試験が行われ、10 月上旬頃に合格発表となる。詳しい情報は都道府県職業能力開発協会 (JAVADA)、または最寄りのプラスチック工業会などに問い合わせるとよい。

4. 試験の内容

実技試験は、試験場に用意された成形機、金型を使って行われる。材料のポリスチレン (PS)、ポリカーボネート (PC) は受験者が用意する。PS と PC 合計 11 kg を用いて、まず PS で 40 個の良品を取り、樹脂替えを行った後、PC で 40 個の良品を取る。それに加えて、材料歩留まりレポート、製品収縮率レポート各 1 枚を作成。これらすべてを 3 時間 10 分で終了